

国際労働運動の潮流と 新たなIMF運動

私たちIMF-JCが加盟しているIMF（国際金属労連）が第32回世界大会を2009年5月にスウェーデン・イエテボリ市で開催し、4年間の運動方針「アクションプログラム」を採択、新役員体制のもと、新たな出発をした。この機会に、「国際労働運動の潮流と新たなIMF運動」をテーマに、国際労働運動の潮流のポイントとIMFの活動や歴史、国際労働運動に果たす役割などを紹介する。

1. 確かな雇用、確かな未来——IMF世界大会の意義
 (西原浩一郎—IMF—JC議長)
 2. 国際労働運動の潮流—萌芽期から社会的拮抗勢力の構築へ
 (小島正剛—IMF—JC顧問)
 3. IMF世界大会の成果とこれからのIMF運動の展開
 (鎌田普—IMF書記次長)
 4. IMFの新体制
 5. 国際労働運動の潮流
 (1) アジア労働運動の最近の動向
 ～第2回アジア金属労組連絡会議の論議を中心に～
 (野木正弘—IMF—JC事務局次長)
- (2) ベトナムにおけるストライキ問題
 (香川孝三—大阪女学院大副学長)
 - (3) ロシアにおける経済危機と労働事情
 (袴田茂樹—青山学院大教授)
 - (4) 米国の被用者自由選択法の動向と労働組合の対応
 (北澤 謙—労働政策研究・研修機構 国際研究部)
 - (5) イギリス・若年層の就業支援・訓練に重点
 (樋口英夫—労働政策研究・研修機構 国際研究部)
 - (6) フランス・企業支援重視の経済刺激策に労組は反発
 (町田敦子—労働政策研究・研修機構 国際研究部)

(文責・編集—IMF—JC組織総務局)



Illustration: しおたまこ